

事業の実績	<p>PBL型授業による、若者の地元（県内）定着促進に対する課題解決策の検討</p> <p>2019年度秋学期科目「演習Ⅱ」（2年ゼミ14人）において、「若者の県内定着を促進するにはどうすればよいか」という、熊本県が抱える重要な政策課題に学生が取り組むPBL型演習を実施した。</p> <p style="text-align: center;">※PBL=Project based learning（課題解決学習）の略</p> <p>第1回（9/26）&第2回（10/3）：ガイダンス，ゼミ生自己紹介 第3回（10/10）：講義「戦後日本の人口移動」（山口） 第4回（10/17）：講義「若者の地元定着」（山口） 第5回（10/24）：外部講義「若者の県外流出と熊本県の施策について」（熊本県労働雇用創生課） 第6回（10/31）：外部講義「若者の地元回帰を促進する取組み事例について」（鹿児島総合信用金庫） 第7回（11/7）：これまでの振り返りと，アンケート調査に向けた準備 第8回（11/14）&第9回（11/21）：「若者の地元定着」に関するアンケート調査票の作成 第10回（11/23）：菊池市フィールドワーク ※11/26，12/3の山口担当科目「経済地理学」で，受講生を対象にアンケート調査を実施 第11回（12/5）&第12回（12/12）：アンケート調査の入力集計 第13回（12/19）&第14回（1/9）：成果報告会に向けたプレゼン資料の作成 第15回（1/23）：成果報告会</p> <p>2020年3月18日，19日：第26回大学教育研究フォーラム（オンライン開催）に参加，発表</p>
具体的な成果	<p>1) 多様な主体の参加</p> <p>外部講義では，熊本県労働雇用創生課の職員，鹿児島相合信用金庫の職員にお越しいただき，官民それぞれの立場から，本事業に関する取組みについてご紹介いただいた。また，菊池市フィールドワークでは，菊池市「域学連携」地域づくり実行委員会のスタッフにご協力いただき，活動内容の紹介をいただくとともに，地域づくりの一環で整備した施設などを見学させていただいた。さらに，成果報告会では，県庁職員，菊池市職員，信用金庫職員など総勢10名の方々が「聴衆＝審査員」となって，学生の発表を採点した。このように，本事業（演習科目）の進行にあたって学外から多くの方々に参画いただくことで，地域との関わりを学生に意識づけることができた。</p> <p>2) 学生の意識の変化</p> <p>本事業（演習科目）では，学生を3～4人ずつ4チームに分けてグループワークを行ったが，最終レポートからは「人とのコミュニケーションが苦手だったけど，グループワークを通じてチームメイトの人たちとコミュニケーションが取れた」との記述が目立った。また，成果報告会で採点結果が最も良かった（優勝した）チームのリーダーが「優勝できたのはチームメイトのお陰」とコメントしたのも印象的であった。社会に出れば，チームで仕事をする機会が増えることから，本事業が学生の社会人基礎力向上につながればよいと期待される。一方，レポートからは「若者の地元定着という地域課題について深く考えることができた」「プレゼン後の審査員の指摘を今後活かしていきたい」といった記述も見られ，ゴールとしての卒論作成に向けた下準備にもなったと考えられる。</p> <p>3) 地域社会のニーズ</p> <p>成果報告会の審査員となった方々からは，「2年生でこういう取り組みは貴重」「取り組みの継続を望む」と言った声が聞かれ，本事業の社会的ニーズを感じ取ることができた。</p>

(山口)